

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

						学校名(宇多野小学校)		
・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理		自己評価			学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成28年3月17日	評価日	平成28年3月17日	
1 確かな学力	主体的に考え、表現し、伝えられる能力の育成	各教科の言語活動の充実効果的指導体制の工夫 各調査の学力分析 帯タイムの充実	話をよく聞いているか。授業中の発表。学習ノートをやすく書いているか。ジョイブロ結果	話を聞く「できている」児童95% 発表81% 学習ノート84% ジョイブロは算数の正答率が下がった。	⇒	ジョイントプログラムの点数もアンケート結果も、もう少し伸ばせるのではないか。中間層の児童をもっと伸ばせるはず。個別の学習支援も必要。漢字を書くや以前に学習した単元が定着していないかった。図形、論理的な思考も苦手。本や資料を学習に使うようになってきたの	帯タイムの学習内容は、前学年の漢字や苦手な計算等に取り組むようにする。自主学習の取組を広めているところだが、質を高めていくように盛り上げていく。少人数教育を推進。式や図から考えを導き出せるようにノート指導も含めて指導を見直していく。	⇒	子どもが学校の外で地域の人とふれあったり、自分から環境のことについて調べにいくことはよいことだ。
	家庭学習の習慣化	自主学習掲示板による児童の交流 学校だよりによる啓発活動	家庭学習で宿題以外の学習をしているか。	宿題以外の学習「できている」児童80%と上昇した。					
	学校図書館の有効活用	図書館活用の校内研究	本や資料を学習に使っているか。	本や資料を学習に使っている「できている」児童85%と大きく上昇				放課後まなび教室の取組もよい体験をしているので続けていく。ゲストティーチャーも増えてきている。ニーズを言ってもらえば人材探しに協力する。	
2 豊かな心	豊かな心の育成	朝読書の実施	周りの人から大切にされているか。読書の習慣が身に付いているか。	大切にされている「できている」児童98% 読書の習慣86%	⇒	たてわり活動において、高学年がリーダーとしての役割を果たそうとする姿、下の学年の児童が協力する姿が見られた。挨拶については、まだ進んでできているとは言えないが、できる児童も少しずつ増えてきている。	引き続き、たてわり活動の取組を進めていく。たてわり活動で頑張った児童が自己肯定感や達成感を持てるようにしっかりほめていく。児童会を中心にあいさつ運動を行っていく。子どもの自主的な活動として展開できるようにしていく。	⇒	最近ニュースで親の愛情が減ってきているケースが増えているように感じられて心配している。読書することは想像力を育てる事にもなり、これからも大切にしてほしい。道徳教育は大切。道徳の授業を参観したい。
	規範意識の育成	道徳教育の推進 安全指導 あいさつ運動	自分からあいさつができるか。学校のきまりや社会のルールを守っているか。	あいさつ「できている」児童95% 学校のきまり「できている」児童89%					
	支え合う集団・絆づくり	たてわり活動 うたのタイムでの全校交流	他の人を思いやり、親切にしている「できている」児童89%						
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	朝ごはんしらべによる意識改善 給食だより保健だよりによる啓発活動	8時間以上睡眠がとれているか。毎日朝ごはんを食べているか。	睡眠「できている」児童70% 朝ごはん「できている」児童88%	⇒	体を動かすことが好きな児童は多いが、経験としては少ない。6年生の大文字駅伝出場は児童のよい刺激になった。朝ご飯はほとんどの児童が摂取できているがやや下った。生活リズムが乱	業間マラソンや校内持久走大会、運動委員会の運動イベントなどで楽しく体を動かせる機会を設定する。朝ご飯摂取率100%を目指して、児童・保護者ともに意義を伝えていく。	⇒	朝ごはんをきちんと食べる習慣は生活の基本。朝ごはんを食べない子どもは、食べたくないわけではないはずだ。家庭にはたらきかけられないか。
	体力の向上	部活動の取組 6年生マラソンの実施 たてわり遊びの実施	外遊びやスポーツなどで毎日体を動かしているか。	体を動かしている「できている」児童86%					陸上部の練習に地域の人が手伝いに来ているが、今後も継続したい。朝ごはんの大切さについて、引き続き保護者に知らせる。
4 独自の取組	小中一貫教育の推進	4校主任会 小中公開授業への参加 図書の相互貸借 合同若手研の開催	小中合同研修会の実施内容 小中合同学校運営協議会での協議内容	小中合同研修会で意見を交換 小中合同の学校運営協議会	⇒	小中合同研修会でインクルーシブ教育を学んだ意義は大きい。交流もできたが、連携までは至っていない。小中・小小の授業参観が少しずつ増えてきている。また図書館活用委員会で必要な図書資料の声を拾ったり、司書教諭や学校図書館運営支援員が担任と連携したりして学習に必要な図書の整備を進めてきている	4校教務主任会を中心に連絡を密にとどめて、スケジュールを調整して、公開授業や若手研修と一緒にできることを増やしていくようにする。引き続き、図書館活用委員会を開き、どんな資料が必要かを明らかにして揃えられるものは揃えていく。	⇒	小さいころの体験は大人になっても覚えている。子どものうちにはいろいろな経験をさせてほしい。
	学校図書館の充実	図書館活用委員会の実施	読書の習慣が身に付いているか。本や資料を学習に使っているか。	読書「できている」児童86%					朝と放課後も図書館を開けられるように地域の人が手伝っているが、今後も継続したい。環境学習の支援を継続ていきたい。
	食に関する指導の充実	栄養教諭・専門家と連携した伝統的食文化の授業	食育授業後の児童・保護者のアンケート 朝ごはんしらべ	食育授業後の児童・保護者のアンケート 朝ごはん調べの分析					

4 総括・次年度の課題

学力向上のために、算数の少人数授業を引き続き行っていく。また、各学力調査の結果を生かして中間層の児童にもしっかりと力をつけるように取り組んでいく。分かりやすい授業の工夫として、ノート指導・板書指導・めあての提示とめあてに応じたまとめとふりかえりのを行うことを徹底していく。ノート検定を継続して実施していく。また、帯タイムで行う内容を精選し、弱いところが定着するように計画的に学校体制で取り組んでいく。自主勉強については、児童の興味関心をもとにした課題や、苦手を中心とした学習を励ましながら意欲を持たせてすすめていくことで、家庭での自学自主の習慣化につなげていく。外国語活動の充実に向けた取組を工夫していく。道徳の教科化を視野に入れ、指導計画を精選し取り組んでいく。

今年度も成果があつたたてわり活動は、継続して進めていく。たてわり活動もあいさつ運動も児童の主体性を引き出せるよう、児童同士のアイデアを生かした活動になるようにしていきたい。また、委員会の児童のアイデアでスポーツイベントなどを企画するようにしたい。特別活動を活性化させ、児童の自主性や課題解決能力、思いやりの心を育んでいきたい。

地域の伝統文化を大切にし、引き継いでいけるように総合的な学習の時間の活動内容を精選していく。今後も地域のゲストティーチャーに協力をいただいて、地域に愛着がもてるよう、自分の考えを持って学んでいけるようにす